



『リコーダーをふく友達』



4年 金田 拓也くん

※リコーダーを一生懸命ふいている様子をよく観察してかきました。



1年 石橋 美月さん

※「こめ」「はら」に気をつけて、書きました。文字数多くて大変でした。



『うみへのながいたび』



5年 伊藤 梨沙さん

ボール投げ

伊藤梨沙

※「投」の字のはらいがとてもむずかしかったです。名前はうまく書けました。



『おかしの家』



2年 鵜澤亜由美さん

※こんなおかしな家があったらしいなと思いい、ボタンやピースをつかいかきました。



『ふで箱』



6年 加藤美奈子さん

※中を、ペンとえんぴつに分けられるように作りました。むずかしかったです。



3年 竹内 ひましくん

※はらいの方向に注意しながら、一画一画ていねいに書きました。

友

三年 竹内 彼心

ひかり歌壇



鈴木甲子幸 (白磯)

昏睡の君は動かす面やつれ
新刊歌誌の開かれぬまま

具体に哀切の想いがよく現れてい
ます

伊藤 定男 (尾垂)
久々に雨雲くらく寒き朝
大気の温り満ちて来たりぬ

下旬の感性がかなめとなつて効い
ております

藤原 敏子 (宮内)
下草の緑萌え初む冬庭に
枯れ菊を焚く煙が匂う

よくある事ながら枯れ菊の匂いが
引き立ちました

越川 福子 (宮内)
大焚火跡あかあかと夕闇に
櫓火耀よう時に弾けて

大焚火の点景をよく視られて余す
なく表現されました

評者詠 竹内 紀葉
冬の陽の没りし夕空一片の
雲なく晴れて茜燃えたとつ